研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-83C		21-064	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Trajectories of alcohol consumption during life and the risk of developing breast cancer
生涯のアルコール摂取パターンと乳がん発症リスク

執筆者

Donat-Vargas C, Guerrero-Zotano Á, Casas A, Baena-Cañada JM, Lope V, Antolín S, et al.

掲載誌

Br J Cancer. 2021 Oct;125(8):1168-1176. doi: 10.1038/s41416-021-01492-w.

キーワード	PMID
飲酒パターン、乳がん、リスクファクター、疫学	34483338

要　旨

目的：女性における、乳がん（breast cancer: BC)発症に対する生涯にわたるアルコール摂取の特徴的な軌跡の影響を比較することを目的とした。

方法：Epi-GEICAM 研究の参加者のうち、浸潤性 BC および年齢・居住地をマッチさせた対照者 1278 人を本研究の対象とした。青年期（12-19 歳)、成人期初期（20-29 歳)、成人期（30 歳以上)に実施したアルコール摂取頻度調査結果を用い、アルコール摂取量（g/日)を算出した。アルコール摂取量により少量（<5g/日)、適量（5-15g/日)、多量（15g/日以上）に分類した。飲酒軌跡モデリングを用い、生涯のアルコール摂取量パターンを同定した。ロジスティック回帰分析を用い、生涯アルコール摂取パターンによる BC 発症オッズ比および 95%信頼区間（CI)を算出した。

結果：アルコール摂取の軌跡パターンは、1）生涯にかけて少量(40%)、2）青年期から成人期にかけて少量から適量に徐々に移行し、多量には至らない（33%)、3）青年期から成人期にかけて、適量から少量に移行（16%)、4）青年期から成人期にかけて、適量から多量に移行し、少量期間はなし（6%)の 4 パターンが同定された。生涯少量飲酒者と比較した BC オッズ比は、適量⇒多量に移行した群で 2.19 (95%CI: 1.27-3.77)、適量⇒少量に移行した群は 1.44 (95%CI: 0.96-2.16)、少量⇒適量に移行した群は 1.17 (95%CI: 0.86-1.58)であった。これらの関連は、閉経後および低体重/正常体重の女性で強かった。ライフステージ別の検討では、青年期における多量アルコール摂取者は、少量群に比べ BC リスクが高く（オッズ比 2.46, 95%CI: 1.04-5.86)、成人期以降の飲酒量が多かった。

結論：生涯を通じて蓄積されたアルコール消費量が多いほど、BC リスクは高く、特に閉経後の女性で顕著であった。青年期のアルコール摂取は、BC リスクに影響を与える可能性がある。